Ise-shima National Park TOBA, SENPOKAKU

The other one, ISE-SHIMA

もうひとつの伊勢志摩

四季に自然が歌う扇野の里をゆく

扇望台からは、鳥羽の人々の営みを思わせる碧き島影が

めだかたちに別れを告げると、急に里山から海を眺めてみたくなり、見晴らしのいい扇望台を目指した。鳥たちのさえずりに送られながら扇望台に着くと、見渡せば陽光に照らされ、ところどころ銀色に輝く鳥羽の海に碧々した島影が浮かんでいる。そのなかには、三島由紀夫の小説「潮騒」の舞台になった神島も見える。あの主人公の少女のように、きっと今日も海女たちは、この風景のどこかで海の恵みを探している。

目線を移すと、今は橋でつながれたミキモト真珠島も見える。御木本幸吉翁が真珠の養殖に成功してからは、真珠が伊勢志摩の重要な海の恵み。ここから海を眺めていると、そんな人々の歴史が走馬灯のように頭に浮かんでは消えていく。

扇望台をあとにして、さらに山を登る。頂は金刀比羅宮。扇芳閣から扇野を散策する道は、金刀比羅宮の参道にもなっている。この神社は、古来より海上の守護神として大物主神・崇徳天皇を祀る四国琴平山を本社とする分社で、今も伊勢志摩の人々の暮らしを見守っている。

春は桜、秋は紅葉 心やすらぐ扇野の里

ここからの眺めもまた素晴らしく、天気が上ければ伊勢湾はもちろん、はるか渥美半島、冬には山頂を雪化粧した富士山を望む日もあるという。扇野に目をやれば眼下には、たくさんの桜やもみじの木。春には桜、秋には紅葉と四季を通じて目を楽しませてくれる、そんな里山のやさしさと豊かさを、あらためて実感してしまう。参道の石段を降り、来た道をゆっくりと帰る。心地よい疲れを感じ、宿に戻ると、また温泉のぬくもりが恋しくなった。露天風呂に浸かりながら、ほっとため息ひとつ。遠く空を見上げた。風が吹くと、かすかに潮の香りがした。時がとまるところ。自分を取り戻す場所、それが扇野の里。

扇望台
緑豊かな山ふところに抱かれた扇野の里。金刀比羅宮への散策道には梅や桜など四季の折々の花が咲き誇ります。また展望小公園からはひときわ雄大な鳥羽湾の風景を一望の下に見渡すことができます。

自然との共存を目指して めだかの学校

小川を泳ぐめだかの群、色とりどりの花咲く散歩道、木々を渡る優しいそよ風。ここは、懐かしい風景と感動に出逢う、心のふる里。小川のほとりや隣接する花壇など、そこかしこに咲く可憐な花が、優雅な旅のひとときを彩ります。

世界にはおよそ4万種の魚が知られ、その約10％が日本の海や河川に生息しています。日本では北海道を除く各地で、田んぼや小川にメダカが泳いでいました。メダカが私たち日本人に親しまれてきた証拠に、全国には2千以上もの方言が残されています。しかし環境悪化で、メダカは激減してしまいました。この度、扇芳閣のご努力で完成した「メダカの学校」をビオトープBIOTOPE＝生物生息空間として、生態系のバロメーターであるメダカをみんなの力で復活しようではありませんか。

鳥羽水族館　館長　中村　幸昭

万華鏡のある音楽人形館

4000体を越える音楽を奏でる（楽器を持つ）人形を展示し、市民の憩いの場としてオープンしました。この音楽人形館は永谷正嗣氏のご協力をいただき実現しました。ライブハウスとしてもご利用いただけます。

広々とした展望大浴場からは、鳥羽自慢の海が一望

出来れば朝、お食事前の時間帯にお風呂に浸ってください。天気の良い日は本当に贅沢な気持ちで温泉を楽しんでいただけることでしょう。

殿方展望大浴場

湯上がり処

水琴窟
地中の瓶へと落ちた水滴が奏でる、微かな音。静寂の中で耳にする琴に似た響きは、しっとりと心に沁みいるようです。刻一刻と変わる音色は無常を謳い、再び同じ音を奏でることはありません。

晩春から初夏にかけては藤棚の紫の花が艶やかに迎えてくれる

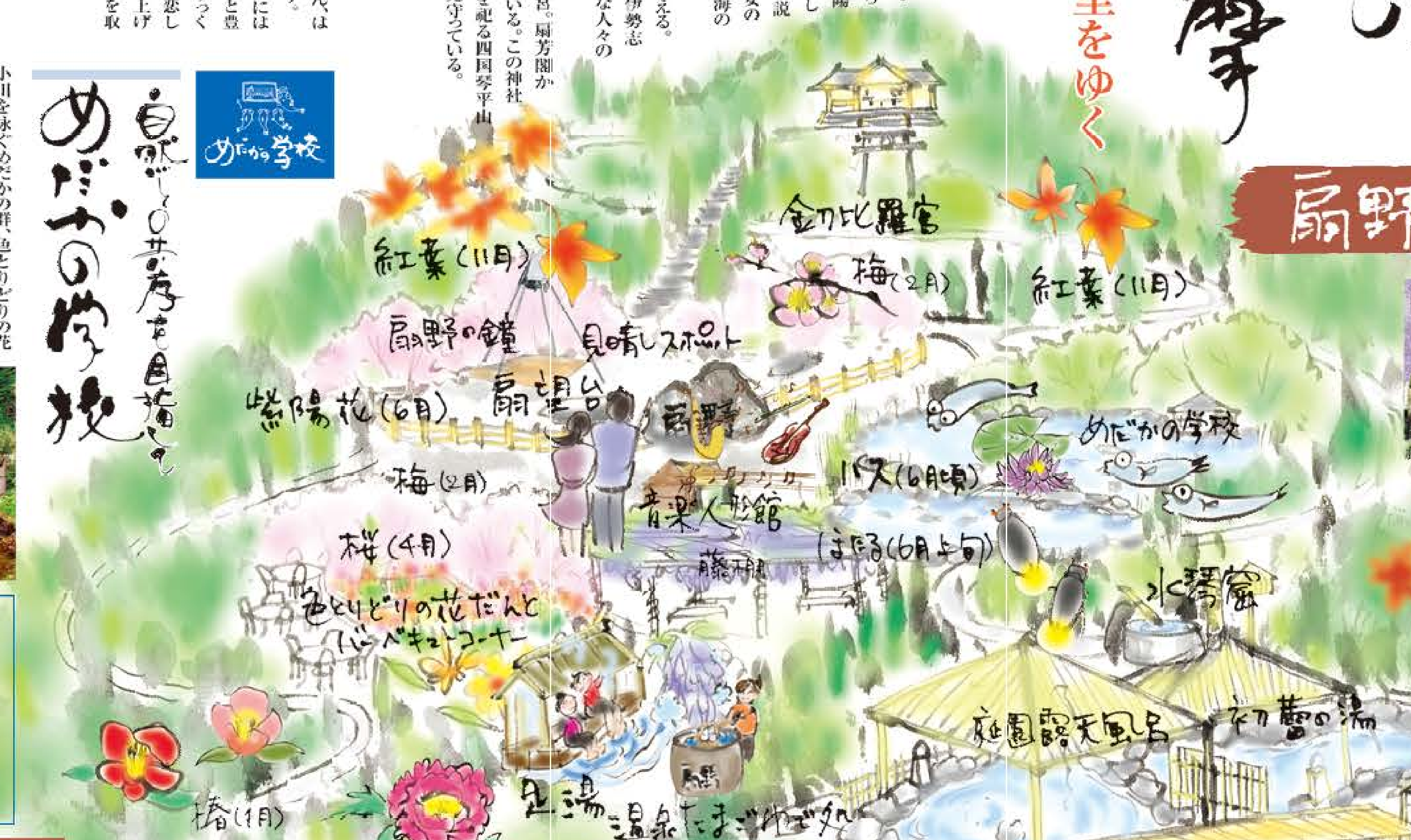
四季折々にその表情を変える扇野の里。扇芳閣の露天風呂から一歩外へ出れば、そこはもう、自然につつまれた扇野の里。まず目に入るのは昔日へ戻ったかのような小さな水車の風景。静かに水を汲み上げて廻るその景色は、なつかしい里山の情緒を醸し出している。なだらかな坂を登ると、そこにあるのは大きな池。「めだかの学校」とある。かつては日本のどこでも見かけることができた「めだか」も、今は探すのが難しいという。それがここには5000匹ものクロメダカが群れをなす。水ぬるむ頃、池をのぞけばきれいに整列しためだかたちが、先頭にしたがって線を描くようにして泳ぐ模様が微笑ましい。

さらにそぞろ歩くと藤棚が迎えてくれる。4、5月には紫や白色の蝶形花をいっぱいに咲かせるという。その向こうには、色とりどりのかわいい花々を風になびかせた花壇が広がる。ここは、まるで来る人を花で歓迎する、扇野の里のエントランス。多彩な花弁の合唱が目にやさしい。

ティーラウンジ「花扇」

ロビー

扇野散策マップ



足湯からは鳥羽湾を一望
（営業時間:日の出～日の入りまで）

藤棚（4月下旬～5月上旬）

ガーデンプール

庭園露天風呂（ご婦人）

扇野温泉
泉質／弱アルカリ性単純泉
効能／リウマチ性疾患、運動性障害、神経麻痺、神経痛、病後回復期、疲労回復

天然温泉に心やすらぐ 扇野温泉 初蕾の湯

OUGINO SPA Hatsu tsubomi no yu

旅の醍醐味の温泉を、扇芳閣ならではの演出でおくつろぎいただく初蕾の湯。湯気のなかに立ち昇るのは、伊勢志摩の地に大切に受け継がれた、旅人を迎えるあたたかな心なのかもしれません。「栄三郎」「おつる」の風呂の名は、山本周五郎作「扇野」に由来するもの。絵師の栄三郎が枯野を描いた襖絵に点睛を加えるため、芸妓おつるに扇を落としてもらう——。そんな詩情あふれるいわれがあります。野趣あふれる露天風呂に身を沈め、しばし静寂に浸れば、日常の喧騒もはるかに遠のき、身も心もほっこりとやすらぎます。自然が奏でる水琴窟の調べもまた、当館ならではのおもてなし。静かに響く水の滴の音に、いつしか時間を忘れ、夢うつつを漂うような、心地よいやすらぎに包まれます。またゆったりと湯に身をまかせながら眺める、展望大浴場からの海の一大パノラマも格別です。

朝な夕なに繊細に変わるその眺めは、一幅の絵としていつまでも鮮やかに心にとどまることでしょう。

露天風呂へ続く道

庭園露天風呂（殿方）